

総務企画部会 部会研修  
ニュースパーク(新聞博物館)

新聞黎明期から現代情報社会まで

総務企画部会では本年度の研修として1月26日(金)「情報社会と新聞を学ぶ」をテーマに横浜市中区日本大通のニュースパーク(日本新聞博物館)を見学しました。

このニュースパークは2000年10月、日刊新聞発祥の地・横浜に開館し、日本新聞協会が運営する情報の大切さと新聞・ジャーナリズムの役割を学べる施設です。

当日は、2階企画展示室で「2023年報道写真展」を開催中で35社の報道カメラマンが政治・経済・社会・スポーツ芸能など幅広い分野で決定的瞬間を捉えた逸材300点が展示されていて大いに感動。3階常設展示室では、新聞の歴史的な資料や新聞を支えた技術の展示、情報社会と現代の新聞ジャーナリズムの役割を学ぶことができました。



総務企画部員ニュースパークにて研修



青少年福祉部会

青少年福祉部会は七夕まつりを6月18日に登戸稲荷社で子ども会とともに実施、コロナ禍以後、4年ぶりとなる紙飛行機大会を11月5日に登戸小学校で開催しました。子どもたちはスタッフから折り方を習い、学年ごとに輪通しや滞空時間の競技を楽しみました。



障がい福祉部会

登戸地区社協障がい者部会では12月3日、福祉パルにて「障がい者団体とのクリスマス会」を4年ぶりに開催しました。障がい者とその介助者を含め十数名の参加で、クリスマスソングやフラダンス、マジックショー等の楽しい催し物が行われました。



社会福祉大会

令和5年10月30日カルッツかわさきにて開催された第59回川崎市社会福祉大会で登戸地区社会福祉協議会総務企画部会の齋藤博さんが地域福祉貢献者として会長表彰されました。

たくさんのご協力  
登戸 ありがとうございます!!

令和5年度 賛助会費報告 573,000円  
(内 401,100円 登戸地区社協に)

★今年度は納入方法が「社協窓口」と「振り込み」のみにもかかわらず、会員の皆さまには多くのご寄付を頂き、スタッフ一同感謝いたしております。

共同募金・年末たすけあい募金

ご協力ありがとうございます  
登戸地区  
令和5年度募金総額  
1,760,342円

福祉の輪  
ひろげて明るい街づくり!

賛助会費のご協力をお願い申し上げます

登戸(登戸・登戸新町)地区社協の主な仕事

- のぼりと福祉フェス開催
- 社会を明るくする運動への協力
- 共同募金・年末たすけあい運動の推進
- 登戸老人いこいの家の運営・協力
- 母親クラブへの後援
- 社協研修会休止中
- ふれあい型老人会食会休止中
- にっこり会
- 広報紙「のぼりと」の発行
- こども会活動への協力
- 障がい者団体との交流会・クリスマス会
- 子育てサロン「ひよっこ」への協力

等々  
町会、自治会、民生委員児童委員協議会、保護司会からの会費、そして地域の皆さまからの賛助会費によって支えられています。



社協は  
社会福祉協議会の  
略称

のぼりと

3.31  
2024 No.31

発行 登戸地区社会福祉協議会  
川崎市多摩区登戸1891  
第3井出ビル3階  
TEL 935-5500  
発行人 松本英嗣  
編集人 総務企画部会

健康と幸せが守られる明るい福祉の街づくり

「ひよっこ」 稲田東地区社協と交流

はらぺこあおむしを出張公演



▲「はらぺこあおむし」のペープサートに見入る子どもたち



▲「ひよっこ」メンバーが「はらぺこあおむし」を披露

登戸民生委員児童委員協議会の子育て支援サークル「ひよっこ」は、12月10日(日)稲田東地区社会福祉協議会(稲田東地区社協)障がい児福祉部会の要請を受け、「クリスマス会」で紙人形劇(ペープサート)を公演しました。

クリスマス会は小学生の障がい児親子21組とスタッフが共にサンタ帽や彩り豊かな三角帽を纏い華やかな雰囲気が始まりました。子どもたちは「ペープサート」の他、段ボールで手造りした「ゲーム・サンタポーリング」、「一緒に歌っておどろきましょう♪(3曲)」などを楽しみ、最後はサンタさんのプレゼントが用意されていました。

「ひよっこ」が公演したペープサートは、英国生まれで世界一広く読まれている絵本「はらぺこあおむし」です。ストーリーは、生れたばかりの小さな「あおむし」が毎日毎日食べ続け太っちょになり、眠った後に美しい蝶になる。赤ちゃんから大人まで楽しめる内容で、子どもたちは真剣な眼差しで物語の世界に浸っていました。

この度の稲田東地区社協と登戸地区民児協の垣根を越えた交流は、普段知る機会のない他地域の福祉活動に触発されたことで、今後それぞれの活動の幅が広がることに繋がるのではないのでしょうか。

◆ いきいきと過ごせる町づくり ◆



登戸地区社協会長  
松本 英嗣

登戸地区社会福祉協議会は、登戸・登戸新町の地域で活動しています。福祉の支援を必要としている方々や、まちの誰もが生き生きと過ごせる町づくり、絆づくりを、諸団体と協力して活動しています。

昨年、「のぼりと福祉フェス」(登戸福祉まつり)を、にぎやかに開催しました。今年も11月に開催予定です。多くの方々の参加をお待ちしています。

老人福祉部会、青少年福祉部会、障がい福祉部会、総務企画部会の4つの部会もそれぞれ頑張っています。

# 旧 登戸福祉まつり

## 特集 のぼりと福祉フェス開催



登戸地区社会福祉協議会(社協)はコロナ禍の影響で3年間「登戸福祉まつり」の開催を取りやめていましたが、令和5年11月3日(文化の日)、新たに「のぼりと福祉フェス」と名称を変更して開催しました。

### 楽しみながら福祉に触れてみよう

「登戸福祉まつり」は4年ぶりの開催にあたり、今までは高齢者対象の色彩が強かったため、令和5年度からの「のぼりと福祉フェス」は、地域全ての年齢層を対象とした“共に楽しみながら福祉に触れてもらう”を主眼にその内容を変更。場所も例年行っていた多摩市民館大ホールから丸山幼稚園(伊藤夏夫園長協力の基)に会場を移しました。

第一部の式典は10時より2階ホールで登戸地区社会福祉協議会の松本英嗣会長が4年ぶりの開催を報告。多摩区社会福祉協議会の大澤敏夫会長、登戸町会連合川鍋賢昭会長からの挨拶、登戸10町会各町会長の参列を得て行われました。

式典終了後はその場が第2部の演芸会場となり、尺



▲バザーには電動カートでお買い物のお客さん



▲川鍋町会連合会長挨拶

八の演奏、コーラス、フラダンス、津軽三味線と民謡の演奏が続き、華やいだ雰囲気になりました。

内容を一新した「のぼりと福祉フェス」は初めての試みということで、ノウハウが何も無くゼロからの出発でした。まず実行委員会の立ち上げから始まり、どのような催しにするか内容の検討、社協の活動を知ってもらうにはどうしたらよいのか…、年齢層を問わない地域住民参加型にしたい、再出発の催しに今までの名称でよいのか…、などなど意見が噴出。委員から社協の活動紹介で車椅子や白杖の疑似体験コーナーを作ろう。社協紹介パネルを作ろう。演奏



▲家族や友達とフリマに参加

など特技の持ち主の推薦や、園庭を使い障がい者施設の生産品販売コーナーを作ろう。バザーや野菜の販売もしよう。個人参加のフリマもやってみよう。子ども会にポップコーンや焼きそばの販売の協力をお願いしよう…。どんどん出てきたアイデアを基

に今回の「のぼりと福祉フェス」の形ができあがっていきました。

### 園庭はバザー・フリマ・野菜販売と盛りだくさん



▲地元野菜や果物の直売

当日は晴れの特異日、文化の日とはいえ11月と思えぬ暖かな天気にも恵まれ、各出店コーナーに多くの人が集まりました。午後の園庭では「未来太鼓道場」の太鼓の演奏が始まると、その音色は圧巻で身体に直接響いてくる迫力に、聞いている人たちの心を鷲掴みにしてしまったようです。演奏終了後は惜しみない感動の拍手が湧き上がっていました。

また、キッズチアダンスグループの参加もあり、幼児や低学年の子どもたちがチアダンスを一生懸命に踊る可愛いパフォーマンスが披露され、試合でこ



上段写真 キッズチアダンス  
下段写真 未来太鼓道場による演奏

んな応援をされたら選手たちは和み、頑張れるだろうと思わせるものでした。

### 車いす・白杖を体験してみた!

車椅子・白杖の疑似体験コーナーは障がい福祉部会が担当し、車椅子体験では自ら車椅子を動かして移動を。また白杖体験では目隠しをして白杖を頼りに園庭内を歩いてみるなど、体験を通して障がいのある方への理解を深める取り組みを行いました。

地域福祉に取り組む登戸地区社協として、初めて幼稚園を借り受けての試み「のぼりと福祉フェス」は、地域の老若男女の方たちに楽しみながら社協の取り組みに触れてもらったのではないのでしょうか。



▲車いす体験

▲アイマスクを掛け白杖を頼りに歩く